



30 議 委 第 5 6 号

平成30年11月30日

南会津町議会

議長 五十嵐 司 様

南会津町議会総務委員会

委員長 貝田 美郎



委員会調査（行政視察）報告書

本委員会所管事務調査事件について、調査の結果を別紙のとおり、会議規則第77条の規定により報告します。

期 日 平成30年10月29日～平成30年10月31日
視察先 奈良県明日香村・奈良県宇陀市
目 的 明日香村 「大和・飛鳥民家ステイ」で地域再生の取り組み
宇陀市 「定住対策について」
出席者 委員長 貝田 美郎、副委員長 菅家 幸弘
委 員 室井 英雄、湯田 哲、山内 政、五十嵐 司
随行員 議会事務局長 馬場秀成

行政視察 明日香村役場 10月30日（火）午前9時30分～午前11時30分
対応者 明日香村議会議長 廣井三平、議会事務局長 関本直嗣
明日香村役場産業づくり課長 浦野喜徳、産業づくり課長補佐 西川浩司
説明者 明日香村商工会 経営指導員（飛鳥ニューツーリズム協議会事務局 統括）
下田正寿

明日香村概要

奈良県の中央部に位置し、その周辺は、飛鳥時代と呼ばれる6世紀末から7世紀にかけての約100年間、一時期を除いて日本の都が置かれ、日本の古代国家体制が形成された地域です。村内には歴史教科書にも登場する有名な古墳や史跡などの歴史的文化遺産が数多く点在します。

大きな特徴は、美しい棚田や5カ所ある国営飛鳥歴史公園などの周囲の自然的環境が、歴史的文化遺産と一体となって美しい景観を形成しています。

人口は5,567人（平成30年10月1日現在）、世帯数は2,162世帯、面積は24.08キロ㎡で、主要産業は農業・観光関連産業です。

調査内容

「大和・飛鳥民家ステイ」で地域再生の取り組み

【本事業の取り組みのきっかけ】

少子高齢化による人口減少、地域を潤す産業の不在などにより地域経済が疲弊する中、観光関連産業の再生により、地域内雇用の増加を図るとともに地域経済活性化を目指す。

平成22年「なら観光ビジネスカレッジ」の開催による観光振興を担う人材の育成講義、ワークショップ、フィールドワークなどを実施し、翌年、これらの人材による体験交流型観光事業（民家ステイ、各種体験プログラム）をスタートさせ、サービスのワンストップ窓口として、明日香村商工会・明日香村地域振興公社・飛鳥京観光協会・奈良県商工会連合会・飛鳥広域行政事務組合の5団体で飛鳥ニューツーリズム協議会が発足した。

本年9月14日に、一般社団法人 大和飛鳥ニューツーリズムとなりました。

【事業内容】

「大和・飛鳥民家ステイ」による国内での教育旅行

・歴史文化の学習

教科書にも掲載されている歴史的文化遺産に直接触れるとともに、「日本のはじまりの地」である大和・飛鳥地域について深く学ぶ。

・食育について学ぶ

古代米・大和伝統野菜などの多種多様な飛鳥の「食と農」の現場から日本食の価値の高さと一次産業（農林業）の大切さを学ぶ。

・交流により人間力を養う

ホストファミリーの方々との協働作業等の交流により、社会で必要とされるコミュニケーション能力を身に付けています。

【インバウンド推進】

現在、アメリカ、カナダ、オーストラリア、中国、台湾、韓国、シンガポール、マレーシア、その他 40 カ国以上の国地域からの学生が訪れています。

各種体験プログラムの造成と販売

農作業体験、史跡めぐり、地元学校との交流、料理作り、飛鳥特産「あすかるビー」を使ったジャム作り、草木染体験、竹林伐採体験などを行っています。

ホストファミリーの広域化

当初、受入団体が 2 団体 105 泊（内インバウンド 0 泊）でしたが、昨年は、125 団体 6,458 泊（内インバウンド 3,257 泊）となっています。

受入体制は明日香村をはじめ、高取町、橿原市、桜井市、宇陀市、下市町の 1 村 2 町 3 市の広域連携を図っています。

所 見

こうした事業の成果として、地域への経済波及効果（産業関連表の活用）を商工会が 100 万円をかけ村内 20 軒・2016 年 1 月から 12 月までを検証したところ、一次波及効果、二次波及効果を含み経済効果 7,465 万円があったとのこと。更に宿泊、飲食等の事業者が増加し、地域住民の「生きがい」の創出を生み、活発な草の根交流の実現ができたことです。

今後は、教育旅行だけでなく、個人旅行者、企業研修の受入を新たに実施していくため、住宅宿泊事業法への対応強化や「地域ブランディング」の確立とその運営方法を目標としていました。

明日香村は、大阪・京都から電車で約 60 分、関西空港・伊丹空港から車で約 70 分と便利の良いアクセスと地域名のブランドが重なり、インバウンド事業において今後も大いに期待でき、羨ましさも感じました。

本町における受入体制は 188 軒、実質 61 軒となっており、高齢化の影響も増していることから現在、只見町、下郷町の個人の方へお願いしている現状です。

受入先の方々は、一生懸命に取り組んでいることは間違えのないことで、こうした取り組みを町民の方々へお知らせし、今後、本町での受入体制をどうしたらいいのか、郡内の広域圏を視野に置き、早急に対処していかなくてはならないと考えます。

行政視察 宇陀市役所 10月30日(火) 午後1時15分～午後3時15分
対応者 宇陀市議会議長 上田 徳、議会事務局長 埜中啓義
議会事務局総務課長 佐々岡肇、企画財政部長 鴻池昭英
説明者 まちづくり支援課長 鈴木隆仁、まちづくり支援課 隅田博樹

宇陀市概要

宇陀市は平成18年1月1日、宇陀郡の旧大宇陀町・旧菟田野町・旧榛原町・旧室生村の4か町村で合併し、奈良県の北東部に位置し、北は奈良市、山添村、西は桜井市、南は吉野町、東吉野村、東は曾爾村、三重県名張市に接して、市の面積は247.62平方キロメートルに達し、奈良県全体の6.7%を占めることとなります。

また、宇陀市は大和高原とよばれる高原地帯に位置しており、一定の平野部を有しているものの、山間部にも集落等が点在しています。土地利用の状況は、山林が全体の72%を占めており、宅地は4%弱になります。宇陀の地は、古くから「古事記」「日本書紀」等の歴史書のなかに記載がみられ、神武伝承の舞台としても知られています。また「万葉集」では柿本人麻呂の「かぎろひ」の歌等にも詠まれており、これらのことから古代における王朝との関わりをうかがうことができます。

人口は30,574人(平成30年10月1日現在)、世帯数は12,971世帯で、主要産業は農林業で食肉用の宇陀牛は有名です。

調査内容 定住対策について

少子高齢化による人口減少と空き家が増えることを懸念し、市民協働・地域振興・産業振興・定住促進により、人口減少対策に重点を置くため、平成22年10月1日に「まちづくり支援課」を設置しています。

【空き家情報バンク制度】

目的 人口減少と地域活力の低下が問題となるなか、市内で増加する空き家の有効活用と、宇陀市に移住したい方にたいして情報発信を行うことを目的に、平成23年5月から実施しています。

概要 対象とする物件、空き家(住める物件であること)については、売却希望(一戸建て、分譲マンションの1専用部分)と賃貸希望(一戸建て)。

空地(地目が宅地であり、住宅の建築が可能であること)については、売却希望に限ります。

協定事業者(宇陀市空き家情報バンクによる空き家仲介に関する協定)は、市内3事業者、市外1事業者で内1事業者が登録窓口となります。

【バンク設立の手法】

空き家バンク登録の相談があれば、即座に同行、対応してもらうためにも市内及び市外近隣の宅建許可のある業者に、当市の空き家情報バンク設立の趣旨をふまえた文章を一斉送付します。

実績 今までの総合計で、空き家131件(成約81件)、空地37件(成約19件)でした。平成30年8月31日現在公開中の空き家が32件、空地が10件。

空き家・空地情報バンクは、ホームページ内で物件を公開し、全国空き家バンクとも連携しています。

【空き家活用推進事業】

空き家を購入や賃貸し、新規に農家民泊・カフェ・店舗等の事業を起業する場合、改修費等の一部を補助しています。

施設改修の上限額は、400 万円（施設改修と設備投資の合計額）。

家財道具等処分の上限額は、20 万円。

家賃補助の上限額は、36 万円。

実績 平成 29 年度は、ゲストハウス・ロシアン雑貨店・陶器販売・カフェ等の 6 件で、1, 246 万円。

平成 30 年度現在は、DIY 講座開設所・農家民泊・カフェ等 8 件で、9 月に 1, 000 万円の増額補正を行っています。

【定住促進奨励金事業】

定住者の増加と自治会活性化による「活力あるまちづくり」を推進するため、宇陀市に住宅を取得（新築・購入）した市民に「ウッピー商品券」を交付しています。

住宅を取得した転入者に 10 万円。住宅を取得した市民に 5 万円。

但し、地域の自治会に加入することが条件となっています。

更に、18 歳以下の子どもが同居する世帯に、1 人 5 万円加算、2 人で 10 万円加算、3 人以上で 20 万円加算。

実績 平成 23 年度から平成 29 年度までの合計が、344 件、定住者 1, 100 人となっています。

【結婚支援事業】

新たな出会いや結婚の機会の創出を支援することにより、未婚化、晩婚化の対策を図るとともに、地域全体で結婚を支援する機運の醸成を図ります。

概要 カップルの成立、さらに市内で住む夫婦の成立を目指し、このイベントを通じて成婚し、市に定住した場合の結婚祝金として、5 万円を支給しています。

実績 平成 23 年度から平成 29 年度まで 63 組のカップルが成立し、内 4 組が結婚、内 3 組が市内定住しています。

【「アタック 25」20 歳代の同窓会開催補助事業】

出会いを創出することにより、結婚、定住促進につなげます。

さらに、故郷の良さを再認識し、U ターンへの機会を設けています。また、同窓会の開催を市内で行うことにより、地域活性化につなげています。

概要 20 歳代を対象とした、学年単位で 25 名以上の参加、市内において開催される同窓会に対し、1 人あたり 2, 500 円を支給します。

実績 平成 28 年度で、3 同窓会の開催、平成 29 年度で、3 同窓会の開催がありました。

所 見

宇陀市のこれらの事業は、本町においても実施されており、目的・内容等は同じであっても手法・仕方の違いで考えられることもありました。

移住・定住対策と空き家対策との連携バランスが取れていることが良い実績に繋がっているのだと思いました。また、これらの事業に対して、メリット、デメリット、課題点を検証していることが、これから重要な役割であることを考えさせられました。

◆視察研修写真



奈良県明日香村での研修



奈良県宇陀市での研修